

〈北海道支部〉
**北海道医療大学における
 先駆的地域連携の事例紹介**

北海道医療大学は当別町に位置し、概ね二五〇〇人の学生が学び、約半分の学生が同じ町内に居住している。地域に根ざした医療大学と当別町の連携・地域の活性化・交流を図ることを目的とし、地元の空き店舗を有効に利用した北海道医療大学の先駆的な地域連携の事例を一件紹介する。

◆事例一 特定非営利活動法人当別町青少年活動センター
 ゆうゆう24

学生の専門領域を活かしたボランティア拠点を作り、地域福祉の推進・地域振興に寄与することを目的として、看護福祉学部教授である横井寿之氏が当別町等の協力を得て、当別町メインストリートの空き店舗を利用し、知的障がい児の一時預かりサービスとして同大学のボランティアセンター「ゆうゆう24」を開設した。

「ゆうゆう24」は、地域住民・関係機関の協力による障がいを持つ親の会との連携推進・地域住民への活動啓発、成

人を対象としたガイドヘルプサービスの創設、知的障がい者のためのオープンカレッジ等々の実施に伴う事業の拡大とボランティア登録学生が四五〇人を超えて、平成一七年四月には特定非営利活動法人となった。

現在、同大学の卒業生である大原裕介所長を中心に職員九名が二四時間体制で当別町の地域生活支援事業所として従来の児童デイサ

ービス等を行う以外にも、社会福祉協議会、教育委員会等との連携により高齢者を対象としたボランティア活動、小中学生福祉教育事業等の活動を行い、ノーマライゼーション社会の実現に向けて活動をしている。

ボランティア参加学生は福祉・障がいの理解の啓発



ゆうゆう24

を目的としたイベントの企画立案をすることで、自主性が培われることや、社会福祉士の資格取得の意欲が高まり合格率が伸びていることで全学的にボランティア活動意識への向上が図られている。

本件は文部科学省の平成一五年度「地域・大学連携による医療系基本教育」ボランティア活動による教育を中心とした「」で特色ある大学教育支援プログラムに選定されている。

◆事例二 歯の健康プラザ

「歯は痛くならないと歯科には行かない」ことから歯学部口腔衛生学講座教授である千葉逸朗氏が当別町等の協力を得て「当別町二万人歯の健康プロジェクト」を立上げ、人通りの多い駅前空き店舗に歯科検診、在宅訪問歯科医療相談、保健支援活動等町民の口腔の健康維持・増進に関する啓発活動の施設として「歯の健康プラザ」を開設した。

同プラザは、学生は専門家とともに地域住民とふれあい、実践的に歯科医療について学ぶことができ、また地域住民も模擬患者となることで学生のコミュニケーション能力の向上に貢献するという、地域の健康支援と学生教育が融合し、地域と大学の交流を促進する場となっている。このことは、教員と学生が街に出て住民の健康に資するという地域貢献の考え方や人間性豊かな医療人教育を能動的に行う

「地域密着型教育」の取組である。

本件は文部科学省の平成一六年度「地域活性化への貢献 地域への健康支援と融合・連携した学生教育」で現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に選定されている。

昨今、各大学ではその個性を活かし、地域と連携し魅力あるまちづくりを目指しているが、ゆうゆう24、歯の健康プラザはともに町の資源を有効活用して、町全体がキャンパスであるという構想の下、地域に根ざし、教職員・学生・町の人々が協力しあい、双方のニーズに沿った事業を展開している成功例といえよう。今回取材に際しご協力いただきました方々に厚くお礼申し上げます。



歯の健康プラザ